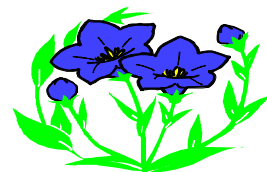




| | | | |
|--------|----------------|------------------|--|
| 校 訓 | 理想は高く 心清らかに | 教 育 目 標 | 未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい 生徒の育成 ~感性を磨き自立を育む教育~ |
|--------|----------------|------------------|--|

できるときに親孝行



9月18日(月)は敬老の日でした。今年は近くのケーキ屋さんからケーキを買ってきて一緒に食べただけのささやかなお祝いでした。

昨年は親孝行の真似事でもと思って近場の温泉に連れて行ったんですけど。水上の「桜花苑」というところで、家から車で20分ですね。落ち着いていいところです。

衣服を脱いだ父の身体を見て、「ずいぶん小さくなって・・・、老いが進んだなあ・・・。」とつくづく思いました。目も不自由で、特に右目が悪くてほとんど見えません。そのため遠近感がつかめなくて、歩くのも簡単にはいかないようです。特に、段差のある所は要注意です。

風呂場は危ないので手を引いてやりました。手を引くことなんてめったにないので、引く方も引かれる方も少々気恥ずかしさがあったげこちない動きでした。でも、父の嬉しそうな表情を見てこちらも嬉しくなり、幸せな気分になったものです。いいコミュニケーションができました。

親孝行なんて難しいことはいらぬですね。気持ちの問題ですから。私がやったように、ちょっと手を引いてやるとか、一緒に温泉に入って会話を交わすとか、それだけで十分気持ちが通じ合って喜んでくれるものだと思います。

「親孝行」とか、お世話になった人への「恩返し」といった言葉は最近あまり耳にしませんね。世の中の風潮が自分中心で、自分以外の人への思いやりや気配りが低下していることの表れかも知れません。「親孝行 したくないのに 親がいる」、こんなジョーク混じりの川柳を聞いて苦笑したことを思い出しました。しかし、「親孝行」や「恩返し」はいくら時代が変わろうと受け継いでいくべき大切なことだと思います。子どもたちにもしっかり教えていかねばと思っています。まずは、親や教師が後ろ姿で示すことでしょね。

人間の存在は、仏教の教えにあるように、「朝(あした)には紅顔ありて、夕べには白骨となれる身なり」という実に不安定な存在です。できる時、しようと思った時に即実行しましょう。「親孝行 したい時には 親はなし」とならないように。